

第8回平取ダム環境検討委員会における指摘と対応（案）

分類	指摘事項	第8回委員会での回答内容	委員会後の対応結果
水環境	・水の濁りの予測について、平取ダムよりも濁質分の沈降性が悪いダムでの濁水問題発生の有無などの事例があれば良い。シミュレーションで全てが判るわけではないので、事例を入れた方が判りやすい。（渡辺委員長）	事例を調べる。	他ダムの回転率を整理し、平取ダムの運用、回転率から、平取ダムは濁水長期化しにくい状況を説明した。
	・水質予測のグラフについて、上の値がグラフから出ているものは補足の数字を記載すること。（庵谷委員）	グラフを修正する。	各時期の最大値がわかるよう、グラフを対数表示とした。
	・富栄養化について、近年の二風谷ダムの状況も整理して予測の記述を整理すること。（庵谷委員）	二風谷ダムの状況を整理する。	近年の二風谷ダムにおいて、着色水発生状況の有無を確認し、平取ダムの運用、回転率から、想定される富栄養化が発生しにくい状況を説明した。
自然環境 (動物)	・貯水池出現後の水鳥の記述について、水辺の国勢調査でミサゴが確認されているのであれば表に追記すること。（藤巻委員）	確認する。	二風谷ダム湛水後に実施された平成14年度及び平成19年度河川水辺の国勢調査（ダム湖版）において、ミサゴは二風谷ダムで確認されていないことから記載しなかった。
	・ハヤブサの保全措置について、特定のペアを対象とした保全措置である旨を記述すること（斉藤委員）。	指摘のとおり追記する。	環境保全措置の表の「本種」を「本つがい」と記載した。
	・ハヤブサの保全措置について、幼鳥が巣立った後も営巣地周辺で生息するため、保全措置の期間を明確にすること。（斉藤委員）	繁殖期の各ステージによって最適な保全措置が違ってくるため、助言・指導をいただきながら検討する。	繁殖期は、求愛期から巣外育雛期を含むこと、及び営巣期は巣内育雛期までを含むことを追記した。
	・文献調査における確認については、どの文献で確認されていたのかを記載すること。（坂本委員）	指摘のとおり記載する。	該当文献番号を表に追記した。
	・エゾサンショウウオの保全措置について、「湿地の確保を図る」としているが、湿地ではなく水溜まりや池という表現にすること。（中林委員）	誤解のないように修正する。	幼生の生息環境を表現する場合は「湿地」ではなく「水溜まり等」との記載に修正した。